

Neuralgic amyotrophy は、整形外科外来をしていても、ときどき頸椎症性神経根症として紹介されてくることがある。以前から、不思議な病気だと興味があったものの、そのまま神経内科に詳細な診断や治療をお願いするというのが常であった。今回特集を読ませていただいて、神経内科医の中でもまだまだ疾患の概念や捉え方が定まっていないことがわかり、さらに興味をそそられた。確かに、本誌の編集委員会において今回の特集について話し合ったとき、委員の間でも必ずしもコンセンサスがあるわけではなく、議論が盛り上がったことを思い出す。

こういったまだ十分わかっていない病態に対しては、多面的に分析していくことが大切であり、整形外科、脳神経外科、神経内科、放射線科で1つのテーマを掘り下げていく本誌が最も得意とする分野かもしれない。さらに今回は、越智健介先生に手外科専門医の視点で、特発性前骨間神経麻痺と特発性後骨間神経麻痺を通して neuralgic amyotrophy を語っていただき、これによってさらに面白く幅広い特集になったと思う。

もう1つ感じたのは、末梢神経の画像診断についてである。画像に引っ張られすぎることについては警鐘が鳴らされることが多いが、画像診断が脊椎脊髄病の診断・治療を牽引してきたことには異論がないであろう。特に骨および造影剤によって可視化できる血管については、CTの進歩が大きく診断能力を向上させた。さらにはナビゲーションの導入によって手術治療さえも様変わりし、骨の画像診断に関しては完成の域に近づいてきた感がある。脳、脊髄の診断もMRIの進歩に伴い発展を続けている。これらに比べると末梢神経の画像診断はまだまだという感じがするが、今回は最新のMR neurographyやエコーが紹介されている。これらは今後ますます発展すると予想され、neuralgic amyotrophyだけではなく、上・中臂皮神経障害やC5麻痺などの脊椎脊髄領域におけるその他の未解決の病態も解明してくれることを心待ちにしている。

(根尾昌志)

脊椎脊髄ジャーナル

編集顧問

長島親男 小野啓郎 萬年 徹
高橋 昭 金田清志 小山素磨
小柳知彦 田代邦雄 国分正一
服部孝道

編集委員

徳橋泰明 (編集委員長)
金 彪 (副編集委員長)
青木茂樹 亀山 隆 園生雅弘
高橋敏行 高安正和 田口敏彦
谷 論 中村雅也 根尾昌志
飛驒一利 松山幸弘 山崎正志

Vol. 31 No. 5
(2018年5月25日発行)

毎月1回25日発行

1部定価 (本体2,300円+税)

(配送料別)

年ぎめ予約購読料 30,700円+税

送料弊社負担

発行/株式会社 三輪書店
代表者 青山 智

〒113-0033

東京都文京区本郷6-17-9

本郷網ビル

TEL 03-3816-7796

FAX 03-3816-7756

URL <http://www.miwapubl.com/>
(担当: 山岸)

印刷所/三報社印刷株式会社

TEL 03-3637-0005

広告申込所/

(株)文栄社

TEL 03-3814-8541

(株)ハイブリッジエージェンシー

TEL 03-3814-0089

本誌の内容の無断複写・複製・転載は著作権・出版権の侵害となることがありますのでご注意ください。

Published by MIWA-SHOTEN Ltd.
6-17-9 Hongo, Bunkyo-ku, TOKYO © 2018,
Printed in Japan

 (出版者著作権管理機構 委託出版物)

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構(電話 03-3513-6969, FAX 03-3513-6979, e-mail: info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。